

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

| 大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ） | | |
|----------------------|---------------|----------------|
| フリガナ) コマザワダイガク | フリガナ) ケイザイガクブ | フリガナ) マツダゼミナール |
| 駒澤大学 | 経済学部 | 松田ゼミナール |

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

| チーム名（フリガナ） | 代表者名（フリガナ） | チーム人数 （代表者含む） | PPT 動画 （有・無） |
|-------------|----------------|------------------|-----------------|
| フリガナ) オカアハン | フリガナ) イシバシ アサコ | 5名 | 無 |
| おかあ班 | 石橋 朝子 | | |

| 研究テーマ（発表タイトル） |
|-------------------------|
| 女性も働きやすい社会を目指す『マママッチング』 |

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

女性の社会進出が促され、様々な取り組みがされていますが、依然として解決できていない問題があります。

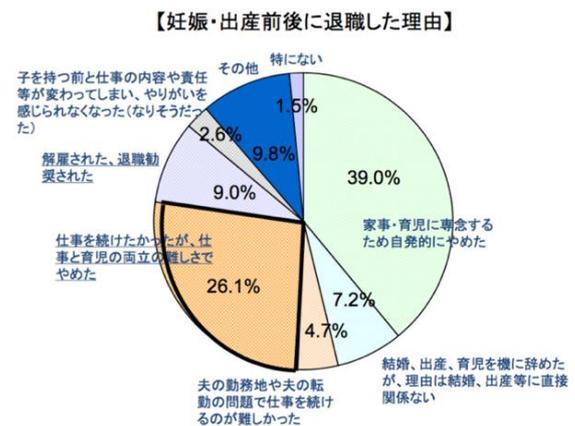
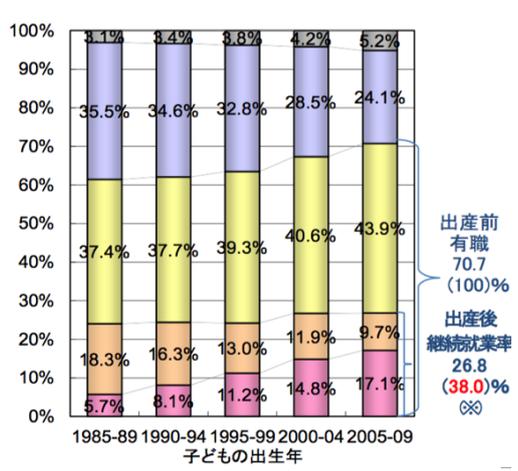
『女性も働きやすい社会』の実現を目指す為には、どのような取り組みが必要か研究した成果を発表します。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

1985年の男女雇用機会均等法から、女性も働きやすい社会を目指した活動が始まりました。

近年では、その活動がより活発化しています。2005年に厚生労働省が「くるみんマーク」を設定、昨年8月16日には「女性活躍推進法」を策定などその活動は様々です。

しかしこのような活動がありながら、依然として出産による退職率は高いままです。また、育児があるため、働きたいのに働くことをあきらめる女性がいることが明らかになりました。



3. 研究テーマの課題

女性活躍のために定められた法律、制度を活用することができる環境を作り上げる必要があります。

減少しない出産退職。加えて、父親の家事育児の参加率の低さ。

法律や制度が整えられていても、母親一人で家庭と仕事を両立するのは困難です。

女性が働きやすい社会は、女性だけの力で作り上げることはできません。

制度や法を利用し働き続けられる環境を整える必要があります。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

男子大学生に育児を学ばせる『マママッチング』を提案します。

子供が2人以上いる母親と、育児を学ぶ必要がある男子大学生をマッチングさせ、男子大学生に子守を行わせます。

男子大学生が子守をすることにより、育児を学ぶとともに、父親の育児参加の必要性を再確認できます。

マママッチングはサイト上で母親と男子大学生をマッチングさせ、学生が主体的に育児を経験できる環境を作ります。

育児参加意識が芽生えた男子大学生が将来、育児に積極的に参加することにより、女性が育児と仕事を両立しやすくなることを期待します。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

NPO 法人 野沢 3 丁目遊び場づくりの会と提携。

野沢 3 丁目遊び場づくりの会が運営するテットー広場にて複数回の研修をし、実現可能か検証。

ホームページの作成。

NPO 法人 tadaima! 代表 三木智有様、筑紫女学園 大元千種教授への取材。

母親 107 人にアンケート。駒澤大学所属男子大学生 221 人にアンケート。

6. 結果や今後の取り組み

テットー広場にて研修をうけた学生は、育児の基礎知識を身につけることができます。

これにより、子供とふれあうことの楽しさや難しさを実感することができます。

また、この経験が、自分の将来を考えなおすきっかけとなり、父親の育児参加意識が芽生えることが期待できます。

母親は、2 人目の子供の世話に集中でき、1 人目の子供のストレスを軽減することができました。加えて、マママッチングを利用することで社会貢献をすることができます。

今後の取り組みは、作成したシステムを利用し、プランの実行。マママッチングの浸透を図ることです。

7. 参考文献

石塚由紀夫『資生堂インパクト』日本経済新聞出版社、2016年

大沢真知子『なぜ女性は仕事を辞めるのか』青弓社、2015年

大沢真知子『ワークライフバランス社会へ 個人が主役の働き方』岩波オンデマンドブックス、2006年

山口一男『論争 日本のワーク・ライフ・バランス』日本新聞出版社、2008年

山極清子『女性活躍推進の推進-資生堂が実践するダイバーシティ経営と働き方改革』経団連出版、2016年

山田 昌弘『女性活躍後進国ニッポン』岩波ブックレット、2015年

『企業力を高める 女性の活躍推進と働き方改革』経済連出版

https://www.city.sumida.lg.jp/kosodate_kyouiku/kosodate_site/kosodate_keikaku/kosodatekaigi/h26/gakureiwg8.files/gakurei8-1.pdf 厚生労働省『世界、国、地方における WLB の動きやその狙い』（最終アクセス日 2016年9月27日）

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。